

肝疾患難病「原発性胆汁性肝硬変」の新規マーカーによる予後予測

中村 稔¹⁾²⁾ 相葉佳洋¹⁾ 小森敦正¹⁾²⁾ 石橋大海¹⁾²⁾

IRYO Vol. 63 No. 6 (357-362) 2009

要旨

原発性胆汁性肝硬変：primary biliary cirrhosis (PBC) はいまだ根治的な治療法が確立していない肝疾患難病の一つであるが、生涯ほとんど進行しない症例や進行して肝移植が必要となる症例が存在する。PBCの診断には、本疾患に特異的に出現する抗ミトコンドリア抗体：anti-mitochondrial antibodies (AMA)の測定がきわめて有用であるが、AMAはPBCの活動性や長期予後の診断には有用ではないとされ、PBCの長期予後診断に有用なバイオマーカーは知られていなかった。最近われわれは、国立病院機構政策医療肝疾患共同研究グループ：National Hospital Organization Study Group for Liver Disease in Japan (NHOSLJ)のコホート研究により、PBCの長期予後の診断には、核膜孔蛋白（gp210抗原）に対する自己抗体（抗gp210抗体）の測定が有用であることを明らかにした。さらに、抗gp210抗体が黄疸を呈し肝不全へ進行するタイプ（肝不全型）の強い危険因子であるのに対して、抗セントロメア抗体が黄疸は呈さないが門脈圧亢進症へ進展するタイプ（門脈圧亢進症型）の危険因子であることも明らかにした。抗gp210抗体と抗セントロメア抗体の測定で予後を推定することが可能となり、より早い時期から対策（治療計画）を立てることができるようになった。

キーワード 原発性胆汁性肝硬変 (PBC), 抗gp210抗体, 抗セントロメア抗体, 予後予測, 多施設共同研究

はじめに

現在、わが国では、いわゆる“難病（昭和47年の難病対策要綱によって定義）”の中から123疾患が難治性疾患克服研究事業対象疾患（特定疾患）に指定され、うち45疾患の医療費が公費負担助成の対象と

なっている。原発性胆汁性肝硬変：primary biliary cirrhosis (PBC) も、公費負担助成対象となっている特定疾患の一つであり、厚生労働科学研究費補助金により調査研究班が組織され、実態調査や原因究明、治療法の確立などに関する研究が行われている（難病情報センター <http://www.nanbyou.or>）

1) 国立病院機構長崎医療センター 臨床研究センター 2) 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学系専攻肝臓病学講座
別刷請求先：中村 稔 長崎医療センター 臨床研究センター内 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科肝臓病学講座
〒856-8562 長崎県大村市久原2-1001-1
(平成20年8月2日受付, 平成21年2月13日受理)

New Biomarkers for the Detection of Disease-progression in Primary Biliary Cirrhosis, an Intractable Liver Disease
Minoru Nakamura¹⁾²⁾, Yoshihiro Aiba¹⁾, Atsumasa Komori¹⁾²⁾ and Hiromi Ishibashi, NHO Nagasaki Medical Center and Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences

Key Words: primary biliary cirrhosis (PBC), anti-gp210 antibody, anti-centromere antibody, prediction of prognosis, multicenter cohort study